

企業の安心という構築

令和5年12月7日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

企業は全ての現実と変化に対して、自己の安定性と永続的な経営を構築することが安心を得るのである。

これは国際政治や市場変化への対応を想定し、企業のシンプル化や効率性を求め、現実変化に対して企業の経営の安定性を要求されるものである。

これら全ての現実変化への対応は、企業防衛における正しい要求なのである。これらは詳細な資料と企業基盤の整備を求め、これら正しい企業経営は、企業の倫理的要求とともに企業を行うことであるはずである。

これらは資金、開発、流通、企業運営システムにおいて、安全と安心を求めることは、その効率性とシンプル化において、これら現実を行うことであると考ええる。

これらは市場認識が、拡大し、政治や国際情勢とともに、企業構築を要求されることは完全に正しいのである。

これらは社員マインドにおいて理解できるのである。これらは嘘を求めないからである。良い会社は、良い企業環境と社員の作業を有するのである。

これらは企業基盤や、就業環境、企業の市場アクセスや経営体制において、MBAシステムに限定しない、日本の独自文化が存在し、それらはジャパンアズナンバーワンという現実を与えたものである。

これら発想の転換は、自己の長所は、未来において現実を求められるのである。短所は未来を有することがないのである。

これは戦後敗戦の考察を得ないこととともに、第2の経済的な敗戦という今日の現実において、正しい考察を求めなくてはいけない。これらは社会的な原因や、独自風土への見直しは、従属における自己でなく、独立と自立における新しい未来という選択は存在するのである。